

センタープロジェクト紹介

科学研究費基盤研究(B)

中国の世界秩序観の歴史的変遷と現在

研究代表者：川 島 真

中国の習近平政権は、既存のアメリカが主導する秩序を「世界秩序」だとし、それについて不公正なものだと批判を加え、特にアメリカを中心とする軍事安全保障ネットワーク、民主主義や自由などの価値観は受け入れないなどとしている。だが、国際連合およびその関連組織、そして国際法については支持するとし、「公正な」秩序を形成するとしている。それは「国際秩序」と表現されている。その国際秩序は、新型国際関係とも表現される。新型国際関係は、中国が支持するとしている国際連合憲章を具現化した理念で、その新型国際関係の実験場が一带一路であり、その2049年の中華人民共和国の100周年にその新型国際関係は世界で実現する、とも中国はしている。胡錦濤政権の時には、その2005年の国連演説に見られるように、世界の秩序は先進国によって担われるものと想定し、中国はそれに対して公正性を求めるという姿勢をとっていた。それが習近平政権になって変化して秩序の創出者にならんとしている、ということになる。

しかし、中国が独自の秩序を創出するにしても、そこに「普遍的」な理念や世界に受け入れられるルールを形成し得るのかどうか、依然未知数である。中国では自らの歴史が参照され、中国の「伝統」をも重視すると習近平政権は明示している。しかし、中国の「伝統」だとされていることを持ち出せば、それが「普遍的」理念に必ずしもなるわけではなく、またその記憶された「伝統」が歴史的な事実であるかどうかとも別問題である。

それでは、中国では個々の時代にどのような世界観、世界秩序観が想定されてきたのか。またそれはいかに継承、変容していったのか。本研究はそのような中国の世界観、秩序観に関する通時的考察を行う共同研究である。共同研究には、19世紀までの王朝の時代、19世紀末から20世紀初頭の対外政策、および制度変容期、20世紀前半の近代国家建設の時代、そして中華人民共和国成立以降の時代を扱う研究者が加わっている。コロナによって海外調査などは十分に行えていないが、東アジア国際関係史研究会などの定例研究会を開催するとともに、研究分担者それぞれが分担領域の研究を進めている。共同研究は3年計画で、今年度が2年目、2022年度が最終年度に当たるので、成果の取りまとめを考える必要がある。